

△産業宣教 重職者の伝道やぐら(使 6:1-7)	△レムナント伝道学 レムナントの祈りのやぐら ① - 三位一体の神様(使 1:1-8)	△核心 力のやぐら(Ⅱコリ 10:3-5)	△散らされた弟子たち 散らされた弟子たちの 道しるべ(使 1:14)
□序論_先にあること 1. 霊的やぐらを先に作るべき 1) 目に見えない 7 やぐらを祈りで建てなさい。 2) 7 旅程を答えにして建てなさい。 3) 常に、3 道しるべを持って方向、未来を決定 2. 技能やぐら 1) 一緒に仕事をする働き人が神様の答えを見るように 2) 私の職業が伝道できるやぐらを建てるべき 3) 私の職業が宣教できる程の祝福を受けること 3. 文化やぐら 1) ここでは多くのキリストの奥義が現れて 2) この答えの中で 5 力が生まれる 3) 皆さんの産業、職業は必ず神の国、御座の祝福が起きるキャンプになる この祝福を味わうようになれば、証拠がたくさん生まれる。すると、教会に行って証して、金土日時代が開かれれば、次世代に言ってあげることができ証人になる。 □本論_目に見えない奥義 1. 初代教会の任職された人々は霊的サミットになった 1) 聖霊に満たされた人を立てなさい。 2) 信仰に満たされた人を立てなさい。 3) 知恵に満たされた人を立てなさい。 2. 重職者、産業人に技能サミットが祝福として来る 1) 使 6:7、7:1-60 大勢の祭司まで悔い改め。ステパノのメッセージと死は永遠に残っていて、パウロに最も大きな影響 2) 使 8:4-8 執事が国家で知らないことをするようになった。この福音がサマリアに証しされると働きが起こって 3) 使 8:26-40 エチオピアの宦官に福音が伝わる。一番最初に世界化したのが福音であり、宣教師 3. 文化やぐらは皆さんを文化サミットにする 1) 使 9:36-43 タビタを通してヤッファに文化が現れた。産業が他の人を生かして、世界を生かすことに変わる 2) 使 10:1-5 皮なめしのシモンの家にペテロが来た。コルネリウスを生かす門が開かれる現場。この産業がすべての暗闇文化を変えた 3) 使 16:11-15 赤いシルクを売ることが世界福音化に用いられるように 4) 使 18:1-4 天幕作りの職業が世界福音化に用いられるように □結論 1. ひとりのゆえに多くの産業、家庭、教会が生かされる。正確な契約を握ったヨケベデとオパデヤのゆえに世界が変わって、ドタンの町運動が起こった。(RT 7) 2. チーム(出会い)だれに会うかにしたがって未来が決定 3. 最後の使命。金土日時代を開くことができるように、皆さんが答えを受けなさい。	□序論 1. 朝(起きた時)、夜(寝る時) - 脳 レムナントは脳を生かせるようにゆっくり呼吸しながら祈りなさい。7 やぐらの中の一番最初に、三位一体の神様が私に臨むように祈りなさい。祈りは霊的な生命線、呼吸は、からだの生命線だ。 2. 勉強と仕事をしながらも、ある日、祈りが 24 になる。このとき、やぐらが作られる 3. 私たちの時間でない 25、神様のこと、永遠のことが答えとして来始める。 △霊的サミットになれば、レムナント 7 人に現れたそのとおりになる。 □本論_祈るときの内容 1. 三位一体-私の中に、霊で臨むように 1) 創 1:27 いのちを与えられる時も三位一体の神様がともに。神様の霊が私の中に入って来れば平安と癒やし、力が生まれる 2) ペリ 2:6 キリストは神の御姿 3) マタ 28:16-20 父と子と聖霊の名においてバプテスマを授けなさい 4) ヨハ 10:30 わたしと父は一つ。 5) 使 1:1-8 三位一体の神様の奥義;キリスト、神の国、しかし(ただ)聖霊 2. 働き 1) みことばによって 2) 救いによって 3) 力によって 3. 時刻表 1) 世々にわたる前 2) 今 3) とこしえまで □結論_霊的サミット(RT) レムナントは祈りで始めて、今から世の中に出て行く前に、先に霊的サミットになりなさい。これを持って行って勉強して、世の中に出て行きなさい。霊的サミットはレムナントへの最高の祝福だ。	マタ 6:10-使 1:3-黙 8:3-5 詩 103:20-22 三位一体の神様が臨在される所、みことばが臨む所に神の国と神の国のこと、主の御使いが臨むようになる。契約の中にいれば、力のやぐらができる。神の国が臨む答えを見るようになる。 □序論 1. 契約を正確に握るとき 1) マタ 16:13-20 あなたは生ける神の御子キリストです。この事実をだれにも話してはならない。 2) マタ 17:1-9 モーセ、エリヤ、イエス様のために幕屋を作るとの間違った契約を握るので答えが来ない 3) ヨハ 19:30、マタ 28:16-20、マコ 16:15-20 復活されたキリストが完了された。暗闇の勢力をみな終わらせた。それゆえ、あらゆる国の人々に行きなさい。すべての造られた者に行きなさい。わたしがあなたとともにいる。 4) 使 1:1、3、8 イエス様が神の国のことを 40 日間説明された。力を与える約束された。 5) 使 2:1-13 この契約を握って降りてきて祈ったが、マルコの屋上の部屋にみことばの中で神様の力が働いた 6) ガラ 2:20 私は十字架で死んで、私の中にキリストが生きておられる 7) Ⅱコリ 5:17 新しい被造物 2. どんな力で働かれるのか 1) 創造の力 2) 救いの力 3) 再創造の働き 3. 正しい祈りの中にいるならば、必ず神の国は成り立つ。 1) 神様が与えられた正確な祈りの課題の中にいれば良い。 2) 正確なみことばの中にいれば勝利するようになる。 3) 私の人生の中に伝道の絶対やぐらを作ると祈れば良い。 □本論_礼拝(個人祈り) - 7・7・3 が私の中に、私の生活の中に、私の未来の中に臨むように祈り 1. 私の中に 1) 創 1:27 私のいのち 2) 創 2:7 私のたましい 3) 創 2:18 私の家庭の中に臨むように祈り 2. 私の生活の中に 1) すべての権威を持って主がともに 2) 行って弟子としなさい。 3) 三位一体(父と子と聖霊の)名においてバプテスマを授けなさい 4) 命じたことを守るように教えなさい。 5) わたしが世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます 3. 私の未来の中に 1) 使 1:1(復活) - 永遠に働かれる復活されたキリスト 2) 使 1:3(基準) - 未来に向かって行く道の基準は神の国のことが成り立つこと 3) 使 1:8(証人) - 地の果てまで証人となることを約束 □結論_ 7・7・3-24	(7・7・3 を) 24 すれば散らされた弟子たちの道しるべが見える。未来を心配しないほど味わいなさい。未来が見えなければ行ってはならず、葛藤することはしてはならない。確実なことだけをしなさい。 1. ヨハ 19:30、マタ 28:16-20、マコ 16:15-20(御名)皆さんが受けるべき呪い、わざわざ、暗闇、地獄、みな終わらせた。いつもともにいるから、あらゆる国の人々を弟子としなさい。証拠を見つけなさい。その御名を使ってみなさい。 2. 使 1:1、3、8 神の国、しかし(ただ)聖霊、地の果てまで証人 3. 使 2:1-47 その契約を握って集まったので五旬節の日になって 4. 使 11:19-30 世界福音化のために散らされた者が集まったアンティオキア教会 5. 使 13:1-4 神様の聖霊が働き、場所、人、完べきに導かれるのだ。 6. 使 16:6-10 門が閉ざされれば最高の機会として、ターニングポイント 7. 使 19:1-7 ティラノとローマに。 神様の計画がどれくらい大きいのか知らずに自分と教会を判断してはいけない。神様が備えられて新しく始められる。多くの人々が判断して逃してしまふ。必ず皆さんを通して世界福音化を成し遂げられる。

△区域メッセージ (第 43 週) 真の力 (7 つのタラント) と 25 の答え (ピリ 4:6-7)	△聖日 1 部礼拝 テサロニケ教会の始まり (I テサ 2:1-8)	△聖日 2 部礼拝 神様が最も貴重に思われること (I テサ 2:13-16)
金曜日の夜から安息日を徹底して守ったユダヤ人は、世界を掌握した。私たちは「金土日時代」を開いて、祈りと健康を維持して、レムナント中心にして、完全に礼拝中心に行かなければならない。「真の力」を備えなければならないためだ。レムナントの「7 つのタラント」が御座と通じることが「25 の答え」だ。 □序論_天才 1. レムナントに最も重要なのが^{タラント}発見だ。これは天から与えられることであるから、祈りを分かってこそ正しく発見することができる。このときついてくることが^{専門性}で、現場を知るようにする^{現場性}だ。 2. 重職者と産業と職場を祈って、ただ、唯一性、再創造になるように 3. 新しい家族に福音の中で過去は土台、今日は御座の祝福を味わうキャンプ、未来は確実な人生の新しい作品を作ること □本論 1. タラント 1) 読書-みことば レムナントに必ず必要な本を三人が分けて一冊ずつ読んでフォーラムをしない。そして、必ずここでみことばが見つけられなければならない。そのとき、刻印されるのだ。 2) 人物-キリスト (RT) の偉人 (人物) 勉強をしながら、キリストとレムナントという単語を見つけ出さなければならない。私たちは福音を持っている残りの者だ。 3) 三つの祭り- 1, 3, 8 ユダヤ人は三つの祭りをとてもよく守った。しかし、その意味は逃した。その意味は 1・3・8、キリスト、神の国、しかし (ただ) 聖霊だ。 4) 礼拝と祈りが何か分かってこそ、そのときから三つのことが出てくる。 5) 私たちが持っている、ただが出てくるが、これを「タラント」を発見したと言う。これが成人式。 6) このとき、唯一性が出てくるが、これを専門性と言う。(使命感) 7) どこへ行っても生き残ることが再創造で、これを現場性と言う。(派遣式) 2. 霊的サミット ユダヤ人は福音がないサミットになって苦しめられるのだ。私たちは成功する前に霊的に先に成功しなければならない。 1) 7 大やぐら 2) 7 旅程 3) 3 道しるべ-使 13, 16, 19 章の道しるべが入っている。これを分かってこそサミットになる 3. 発見 1) 私-神様が造られた私を発見 2) 私のこと-神様が与えられた私のこと 3) 私の現場-神様が与えられた私の現場を見る。 □結論 1. 多民族 (Room) -神殿を作ったとき、多民族の空間、Room がなければならない。特に TOK、第 3 文化圏にある子どもたちが重要だ。 2. 癒やし (味わう)-安らかに来て癒やされる力を受けることができるべき 3. RT (サミット) -最も重要なのはレムナントをサミットにすること	□序論 1. 伝道の中で一番重要な伝道が神殿 1) サタンがすること (エペ 6:12) -支配、力、天上にいるもろもろの悪霊、不法を行う者を利用して、偶像を作って仕えるようにさせ、全世界を暗闇中心に陥るようになさせる。 (1) 偶像神殿を作って偶像崇拜するようにさせた強大国 (2) 偶像神殿を観光コースに (3) フリーメイソン会館と会堂で次世代の文化掌握 (4) 三つの庭を奪った 2) 神様が喜ばれる教会を作って人生を変えるべき。貧しさ、無能、病気を崩すべき (1) モーセ-幕屋運動 (2) サムエルとの出会い-契約の箱と神殿を祈り、準備したダビデ (3) 私たちの生涯で最も重要な霊的戦い-神殿建築に挑戦 2. 世界遺産として残るくらいの神殿を残したテサロニケ教会 1) 偶像崇拜した国はみな崩れた。 2) 生涯をかけて戦争するという決断-私の人生の運命と次世代を変える働きが起こらなければならない。 (1) ソウルに何百か所の祈り場-ムスリム (2) ランドマーク神殿建築を決定-モルモン教 (3) テンプルステイ-仏教 (4) 偶像崇拜すれば霊的問題が来るということを知っているのをかけて決断した信仰の人ターチュ・キチヨル牧師、チェ・ドクチ牧師 3. 私たちが伝えた福音が無駄にならないようにしなさい。いのちまで、喜んであなたがたに与えたい (1, 8 節) 1) テサロニケ-マケドニアの重要な貿易港、高速道路、アレクサンダー王の支配、ローマの属国 2) 教会の状況-ユダヤ人がいのちをかけて福音を妨害、終末論者が教会を惑わす状況 3) 暗闇を砕くことができる福音を持っている教会が起きなければならない。いのちをかけなさい。やぐらを建てなさい。祈るチームを構成しなさい。霊的戦争をすべき □本論_テサロニケ教会 1. テサロニケ教会の始まり 1) 真の福音を持った者が始めた教会 (使 17 章) 2) 原色福音で始めた教会 (I テサ 1:3) 3) 力の福音で始めた教会 (I テサ 1:5) 2. 過去を完全に土台として行く教会 (4 節) 1) 神様を喜ばせること-計算でなく関係 2) 私たちの信仰が予算で、祝福が決算だ。 3. 三つの庭がある教会 1) 異邦人の庭-ローマまで生かす異邦人の庭 2) 子どもたちの庭-多くの子どもが神様の力と祈りを学び、福音を感じるようにさせる 3) 癒やしの庭-病んだ人々が来て、癒やされる教会 □結論 1. 人生を完全に変わる信仰生活、次世代に世界を生かすことを譲る信仰生活、三つの庭がある教会 2. 神様はこの契約を握った人々にすべてを皆与えられた。 3. 証人として立つべき	神様が与えられたことを味わえば良い。一日に一回ぐらいは神様が与えられる力を受けて祈る時間がなければならない。私は呼吸して、これを祈りで味わう。 私の中に 7 やぐら-三位一体の神様が皆さんとともにおられるという約束、御座の祝福、これを味わえば過去、今日、未来が変わる働きが起こる (3 時代)。5 力が現れる。空中の権威を持つ支配者に勝つ力を与えられる。すると、あらかじめ見えて (CVDIP) 三つの庭が出てくる。 7 旅程-三位一体の神様が道を導かれ、勝つことができる奥義をくださる。確実な土台 10、この力で流れを変えることができる。問題、危機が来るたびに答えが出てくる確信。一生にすることが出てくる。私のすべての生活は御座の力を味わうキャンプとなる。 使 2:1-47 マルコの屋上の部屋の始まり、使 11:19-30 アンティオキアで宣教の門を開ける。 道しるべ-聖霊の導きを完全に受ける、答えから受ける使 13 章、道が閉ざされたように見えるがターニングポイント使 16 章、ローマ使 19 章 うまくできないのか。^{修理}が必要だからだ。 □序論_恐れてはならない。^{殺す霊を受けた者} 1. 福音を悟れなかった強大国-マケドニア、ローマに苦しめられたテサロニケ教会 2. 律法、制度、伝統、敬虔を持って人を殺して伝道、宣教の門を防いだイスラエル 3. ヨーロッパ時代-キリスト教が教理争いだけするとき、良い文化をみな持っていったムスリム □本論_確信を持って味わいなさい 1. 使 17:1-9 テサロニケ教会の始まり-やぐら 2. I テサ 1:3 信仰の働きと望みの忍耐と愛の労苦-旅程 3. I テサ 1:5 力と聖霊と強い確信によって-聖霊が力で働かれるそこに道しるべがある △わざわざ組むのではなく、24 祈りチームが作られなければならない。 □結論_神様が祝福する所を見つけ出さなければならない。 1. 私の中に-7・7・3 祈りで建てなさい。私の中にこれがいっぱい満たされてやぐらになるべきだ。 2. 教会-三つの庭がある教会 3. 実際のやぐらを建てなければならない。実際に祈って、献身して味わうことができる Room がなければならない。△重要な問題があれば 24 してみなさい。むだな不信をせずに口を閉じたが、エリコが崩れた。多民族に Room がなければならない。重職者に実際に祈りで動かす私の祈りの部屋なければならない。どこの国を置いて祈ると決まっているべき。必ずすべきことをすべきだ。最も重要なことを 24 に入れば良い。建築は 24 祈りに入ればならない。